



# みずどう

確かな学力、豊かな心、健やかな身体のバランスのとれた子どもの育成をめざす

令和5年8・9月号  
尼崎市立水堂小学校  
尼崎市立水堂町1丁目32-8  
TEL(06)6437-3804  
<http://www.ama-net.ed.jp/school/E30/index.htm>

## 心身を鍛え

いよいよ夏休みが終わり、2学期が始まります。夏休みいかがお過ごしでしたでしょうか。私自身、夏休みの思い出といえば、中学・高校時代の部活動の厳しい練習を思い出します。暑い中で、汗だくとなりながら練習に励むことで、体力が鍛えられました。ただ、暑いといっても近年よりはマシだった気がします。

国連のグテーレス事務総長は7月の世界の平均気温が観測史上最高となる見通しが明らかになったことを受け、「地球温暖化の時代は終わった。地球沸騰化の時代が到来した。」と訴えました。日本でも2007年より使われ始めた「猛暑日」という言葉が、今では当たり前のように耳にします。暦の上では秋ですが、2学期になっても暑い日が続くことが予想されます。体育大会の練習も始まることから、しっかりと水分補給できるように、毎日、水筒の用意をお願いいたします。

さて、本校のめざす子ども像に、「心身を鍛え」とあります。「豊かな心と健やかな身体を持ち、自尊心のある子」の育成を目指します。学校では体育の学習や給食での食育など様々な教育活動を通して、健やかな身体の育成に努めています。

自尊心という言葉はよく耳にすると思います。それと似たような言葉で、「自己肯定感」という言葉があります。それぞれニュアンスは少し異なりますが、自分を好きになるという点では同じです。内閣府の調査によれば、日本の若者は諸外国に比べて、「自己肯定感」が低いとされています。「自己肯定感」が低いとネガティブ思考となり、様々なことにチャレンジしなくなると言われています。これからの予測困難な社会の中では様々なことにチャレンジしていく必要があり、そのために「自己肯定感」を高める必要があります。そのために、大人が子どもたちに、ありのままの自分を受け止め、なりたい自分に向かうことの大切さを伝え、子どもの良さを積極的に認めることが大切です。また、子どもたち同士でも認め合うことも大切です。このような取り組みを2学期以降も本校では取り組んでいきます。

2学期は1年で1番長い学期です。その中で子どもたちは様々なことにチャレンジします。ご家庭でもお子様の頑張りには是非耳を傾けてくださいますようお願いいたします。

## 【8・9月 行事予定】



日	曜日	項 目
8/25	金	始業式、12時30分下校
26	土	
27	日	
28	月	12時30分下校
29	火	12時30分下校
30	水	12時30分下校
31	木	12時30分下校、夏休み作品展 定時退勤日
9/1	金	授業参観（5校時）、給食開始 夏休み作品展
2	土	
3	日	
4	月	朝会、委員会活動
5	火	避難訓練
6	水	代表委員会
7	木	避難訓練予備日、定時退勤日
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	クラブ活動

12	火	
13	水	
14	木	6年生アウトリーチ（パーカッション演奏） 定時退勤日
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	敬老の日
19	火	教育実習（10月13日まで）
20	水	
21	木	定時退勤日
22	金	
23	土	秋分の日
24	日	
25	月	クラブ活動
26	火	
27	水	
28	木	定時退勤日
29	金	1年生校外学習（王子動物園）
30	土	
31	日	

## 【カーテン洗濯のお礼】

夏季休業中に育友会の有志の方々が、教室のカーテンの洗濯をしてくださいました。水堂小学校の教室は、南から光が射して明るいですが、カーテンがきれいになりさらに明るくなりました。子どもたちのためにご協力していただきありがとうございました。



## ～職員より～

私の子どもは4人中2人が起立性調節障害(OD)という障害を持っています。小学校5年生ごろから朝血圧が低く起きられなくなり、体を起こしていたり数分間立ちっぱなしでいたりすることが難しくなりました。高校は体調に合わせて遅い時間に登校できる多部制を選び、徐々に回復していているところです。「ODの子の多くは体調が回復してくると、自分のやりたいことに突き進んでいく。」と専門のお医者さんが言っていました。まさに、うちの2人の子も部活動に将来の仕事につながる勉強に頑張りすぎないくらい頑張っています。「普通」にこだわらなくなると夢は大きくふくらむようです。セサミ・ストリートの作家エミリー・P・キングスレイさんの詩に「オランダへようこそ」というものがあります。この詩の中で、エミリーさんは自身の子育てを旅行に例えています。「イタリア旅行に行くつもりで飛行機に乗ったのにオランダに着いてしまった。周りの人たちのイタリアに行った話を聞くと、自分も行くはずだったのに」と心が痛むこともあるけれど、イタリアにこだわり続けずオランダを知れば楽しめますよ、という内容です。ほんとうに、いまの子は「オランダ」を楽しんでいる様子です。

(特別支援教育支援員)